

一誌一句(受贈誌11・12月号他より)

米田 透 抄出

浄瑠璃の町の真如の月明り

(諷 詠)

和田 華凜

女人是より入るを許さぬ青山河

(多 磨)

関 成美

災害と疫病のありて秋深む

(やまぐに)

恒藤 滋生

樹下といふ測れぬ広さ朴落葉

(廻 廊)

八染 藍子

秋冷や肘でねぢ込む畳針

(春 月)

戸恒 東人

鎮まりて甲斐駒ヶ嶽秋の雪

(郭 公)

井上 康明

蕎麦湯乞ふ頃合ひなりしひとり席

(沖 )

能村 研三

シクラメン人は声から老いてゆく

(春 嶺)

伊藤 晴子

世の変る兆しひしひし十二月

(波 )

山田 貴世

番号のつけやうがない蟻の列

(菜の花)

伊藤 政美